

2016年12月15日

各 位

双日株式会社
双日総合管理株式会社

双日グループ、保育所運営事業へ参入
～女性活躍推進を支援～

双日のグループ会社である双日総合管理株式会社（本社：東京都港区、代表者：梅田毅、以下、双日総合管理）は、保育所の運営会社である株式会社アンジェリカ（本社：東京都目黒区、代表者：須藤 義一、以下、アンジェリカ）の全株式を取得することを決定しました。これにより、双日総合管理は新たに保育所運営事業へ進出し、東京都内を中心に保育所を展開します。

アンジェリカは2004年から保育所の運営を開始し、こどもたちの自尊、協調、自立、創造の4つのこころを育てるため、農園、食育、絵本、英語、リズム（音楽）の5つにこだわりをもった質の高い保育を実践しながら、現在、東京23区内で15カ所（認可保育所9カ所、認証保育所6カ所）を展開しています。



双日総合管理は東京と大阪を中心にビルおよびマンションの管理に従事してきましたが、今後、働く人、住まう人に対して多様で高い付加価値を提供する総合ライフソリューション・サービス企業として更なる展開を図る方針です。

このたび、アンジェリカが双日グループの一員となることで、双日グループ内で展開している国内不動産事業との機能的な連携を図り、国内不動産のサービス充実化や東京都内を中心とする保育所の新規展開を行っていきます。

昨今の女性の就労率の上昇などに伴い、待機児童の増加が特に首都圏で深刻な社会問題となっています。双日グループは、総合商社としての機能を活かし、今後、保育の質の向上を図りつつ、毎年安定的に保育所を新設する計画です。保育所運営を通じて、保護者が安心して子育てと社会活動とを両立しながら活躍できる社会の実現と、未来を担う子どもたちが健やかに成長できる社会の創造に寄与していく所存です。

以上

【株式会社アンジェリカの概要】

設立	2004年11月
本社所在地	東京都目黒区下目黒 1-6-20 明治安田生命目黒ビル 5F
代表者	須藤 義一
事業所数	15カ所（認可保育所：9カ所、認証保育所：6カ所）
従業員数	362人（2016年7月時点）
主な事業内容	保育所の運営
URL	http://www.angelica-nsy.net/

【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03-6871-3404

<参考資料>

アンジェリカ保育園の理念と方針

3つの理念



1
子育てと仕事を
両立している女性の
社会での自己実現を
支援します。

2
多様化する
保育ニーズに
対応します。

3
次世代を担う
子ども達の育成に
貢献します。

4つのこころを育てます

認め、愛され、大事に
され、いつも聞いてもら
えるなどの体験を積み重
ねることによって自分自
身への自信を育てます。

自尊の心

協調の心

集団生活の中で思いや
りや責任感を育てます。

自己の主体性を形成す
る環境とひとりひとりの
個性を尊重します。

自立の心

創造の心

ひとりひとりの可能性を
引き出すようにサポート
します。

5つのこだわり

アンジェリカでは3つの理念を実現し、子どもたちの4つの
こころを育てるために、5つのこだわりをもって運営してい
ます。このように、「心を育てること」に重点を置いた保育で、
子どもたちの未来を創造していきます。

農園



体験の中で得る食
食の連続性を体感
埼玉黒日高市にある3haを超える
ます。ここから給食の「連続」が始
や福刈り、夏野菜の収穫体験、芋

物と農業のつながり。
し、生きる力を育てます。
大きな農園で給食の野菜を作ってい
まします。行事も盛りだくさん。田植え
掘りなど保護者さまも参加できます。

食育

食育のテーマは「食の連続性」。
食べることの喜び、楽しさ、感謝するこころを育みます。

食べ物の向こう側にある「作り手」の物語に想い寄せることができたら、どんな
に素敵なことでしょう。きっと感謝のこころもそんなところから生まれてくるのだと
思います。アンジェリカでは自社農園との連携の中で、食育を展開しています。

リズム



オリジナルのカリキュラム「アンジェリカリズム」。
自由な自己表現を通じて
「こころ」の豊かさを育みます。

アンジェリカリズムはすべてオリジナルのカリキュラムです。楽しいリズムで、お
子さまの個性的で創造的な表現力を大切に育んでいます。

絵本

自由な発想で絵と対話する子どもたち。
想像力と感ずるこころを大切に育みます。

絵本には必要なものがすべてあります。色や形、文字や数字、ストーリーを讀
み解く想像力や空想力、聴く力や集中力、そして読み聞かせには人のぬくもり
や大切にされているという心地よさ、絵本にはすべてがあります。アンジェリカ
は絵本を大切にしている保育園です。

英語

肌の色、言葉、文化など
自分と違う多様な人を受け止め、
こころの通ったコミュニケーションを図ることが目的です。

肌の色、言葉、文化や仕事など自分と違う多様な人を受け止め、こころの通っ
たコミュニケーションを図ることを目的とします。子どもたちはあるがままに先生
を受け止め、受け入れ、そして先生と会えることを楽しみにするようになります。